

第9回マザーレイクフォーラム びわコミ会議2019 資料

テーマ ～びわ湖のこれまで、そしてこれから～

びわコミ会議は、これからの「みんな」と「びわ湖」を考える、年に一度の大集会。
琵琶湖流域にかかわる様々な主体が、お互いの立場や経験、意見の違いを尊重しつつ、
思いや課題を共有し、琵琶湖の将来のために話し合います。



日時：2019年8月31日(土)

10:00～16:30

会場：コラボしが21(滋賀県大津市打出浜2番1号)

主催：マザーレイクフォーラム運営委員会・滋賀県

目次

進行プログラム	1
第1部・第2部の報告者等リスト	2
第2部「びわ湖のこれから話さへん？」の進め方	3
第2部の進行方法	4
びわ湖との約束	5
マザーレイクフォーラムびわコミ会議において提示された マザーレイク 21 計画の評価結果(第4～8回)	6
2018 びわコミ会議 私のコミットメント(約束)一覧	17
「近江さんすい」に寄稿をおこなっています！	20
マザーレイクフォーラム登録団体・個人 所在地マップ	21
琵琶湖周航の歌 歌詞カード(1～3番)	22
ブース出展配置図	23

第9回 マザーレイクフォーラム びわコミ会議 進行プログラム

令和元年8月31日

<午前の部:第1部>

時間	タイトル	内 容
10:00	開会	○司会者より第1部開会の案内
10:05	挨拶	○マザーレイクフォーラム実行委員長より挨拶および趣旨説明 ○滋賀県副知事より挨拶
10:15	旗揚げアンケート等	○昨年のコミットメント達成状況のアンケート ○コメンテーター紹介 ○グラフィックレコーディング紹介
10:25	「びわ湖なう」	○びわ湖なうの説明 ○コメンテーター・会場からのコメント
10:55	「みんなつながる報告会」	○団体から報告 ①野洲川下流部での住民活動と河川行政との連携(琵琶湖河川レンジャー 根木山恒平氏) ②漁師から見る琵琶湖(沖島漁業協同組合 奥村繁氏) ③Share INAKA with the World!! 地域と共につくるインバウンドのかたち(Biwako Backroads 松井ライディ貴子氏) ④魅力を知るきっかけ(FLOATING LIFE 中川善一氏)
11:40	寄付金受領式・寄付金活用の実績報告	○寄付金の目録受領 ①びわカンゴルフコンペ様 ②びわ湖チャリティー100km歩行大会実行委員会様 ③Flower produce 一花(ichica)様 ○寄付金活用の実績報告 ①マザーレイクにありがとう実行委員会 ②びわ湖seedsキャラバン
11:55	第1部閉会	○第1部閉会のことばと種々案内 ◇昼食休憩の案内(13:15までの1時間15分) ◇ブース見学、出展団体との交流の案内 ◇第2部「びわ湖のこれから話さへん？」の開始時間・場所の案内

12:00 ～ 13:15	昼食休憩 ブース見学	◇ブース見学、出展団体との交流 ◇第1部のグラフィックレコーディング掲示
---------------------	---------------	-----------------------------------------

<午後の部:第2部>

時間	タイトル	内 容
13:15	「びわ湖のこれから話さへん？」開会	○司会者より開会の案内
13:20	趣旨・流れの説明	○話し合い方法の説明、13グループの紹介、参加グループ分けを行います
13:40	話し合い開始	○各テーブル(13グループ)に移動 ○テーマに沿って話し合い ○話し合い終了後、指定用紙にキーセンテンスを記載(各グループ1枚)
15:00	(小休憩 20分)	○全員、メイン会場(大会議室)へ移動して下さい。 ○「わたしのコミットメント」を指定用紙に記載して下さい。
15:20	全体討論開始・進め方説明	○司会者より全体討論開始のアナウンス ○全体討論の進め方の説明
15:25	各グループのキーセンテンスの説明	○各グループ代表から、キーセンテンスのみ読み上げ ○司会者とのやりとり
16:10	「わたしのコミットメント」発表	○わたしのコミットメントを掲げて下さい
16:20	琵琶湖周航の歌合唱	○参加者全員で、川本勇さんのギターに合わせて琵琶湖周航の歌を合唱
16:25	閉会	○司会者から閉会のアナウンス

※お帰りの際はアンケートに記入し、旗、ペン等は机の上に置いておくか、受付の回収ボックスへお願いします。

第9回マザーレイクフォーラムびわこ会議2019

第1部・第2部の報告者等リスト

■ 第1部 みんなつながる報告会

No.	タイトル	報告者	所属
1	野洲川下流部での住民活動と河川行政との連携	根木山恒平氏	琵琶湖河川レンジャー
2	漁師から見る琵琶湖	奥村繁氏	沖島漁業協同組合
3	Share INAKA with the World!! 地域と共につくるインバウンドのかたち	松井ライディ貴子氏	BiwakoBackroads
4	魅力を知るきっかけ	中川善一氏	FLOATING LIFE

■ 第2部 びわ湖のこれから話さへん？

NO.	テーマ	担当者	所属
1	沖島と琵琶湖の関係性	柿佑爾氏	座・沖島
2	世界中の人が訪れたいくなるびわ湖にするには？ 既存の「観光」にはないその先の魅力を伝える	松井ライディ貴子氏	BiwakoBackroads
3	未来に残る琵琶湖の姿とは？ 魅力を尊重する発信とは？	中川善一氏	FLOATING LIFE
4	語り合おう！野洲川の過去・現在・未来	石橋弘之氏	総合地球環境学研究所
5	びわ湖に対するそれぞれの「想い」の距離感をどう縮めるか？	石中英司氏	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
6	北湖のオオバナミズキンバイについて	佐藤美菜氏	NPO法人国際ボランティア学生協会
7	天井川のこれまで、これから	桐畑孝佑氏	湖南流域環境保全協議会
8	琵琶湖の豊かさを守るには？	松垣俊亮氏	大川活用プロジェクト 支援団体haconiwa
9	釣り人が出来る琵琶湖の保全と活用	武田みゆき氏	淡海を守る釣り人の会
10	マザーレイク21計画のふりかえり	清水宏孝氏	滋賀県琵琶湖保全再生課
11	「やまの健康」について	櫻本直樹氏	滋賀県森林政策課
12	水源の森のこれまで、これから	野間直彦氏	滋賀県立大学
13	水草×情報化	近藤康久氏	水宝山(水草は宝の山)

※テーブルの部屋割り

テーブル1～7：大会議室 8～10：中会議室1 11～13：中会議室2

第2部「びわ湖のこれから話さへん？」の進め方

1 参加するテーマ(グループ)を選ぶ

13 個のテーマごとに、グループに分かれて話し合いを行います。自分の興味のあるテーマのグループを自由に選んで参加してください。人数制限はありませんが、人数が多すぎると深い議論ができません。人の偏り具合を見ながら、自主的に調整をお願いします。

※話し合いを周りで聞いているだけでも結構ですので、お気軽にご参加下さい。

2 グループで話し合う

各グループには、「進行役」と「記録係」がいます。議論の流れは、おおよそ下記のような流れです。

①簡単な自己紹介

まずは知り合しましょう。お名前、ご所属、普段の活動内容などを簡単に。

②テーマに沿っての話し合い

進行役の進行に沿って、グループで話し合いを進めてください。議論の概要は記録係が模造紙等に取りまとめます。

③キーセンテンスをまとめる

議論の最後には、進行役が簡単にふりかえりをしますので、全体討論において各グループから提示する「キーセンテンス」をまとめてください。

※記録係は、話し合い終了後、各グループでの議論の内容や、マザーレイク 21 計画の見直しの結果についてまとめます。これらは後日、マザーレイクフォーラムのホームページなどに掲載する予定です。

3 話し合いのルール

○他の参加者の話に耳を傾けよう

自分の意見を発表するだけでなく、他の人の意見にも耳を傾けましょう。限られた時間の中ですので、できるだけ多くの方が発言できるよう、発言内容は簡潔にし、他の人へのご配慮をお願いします。

○批判するのはやめよう

他の人の意見は尊重し、批判をしないようにしてください。議論を無理にまとめるのではなく、いろんな意見があることをみんなで尊重し、理解することに努めましょう。

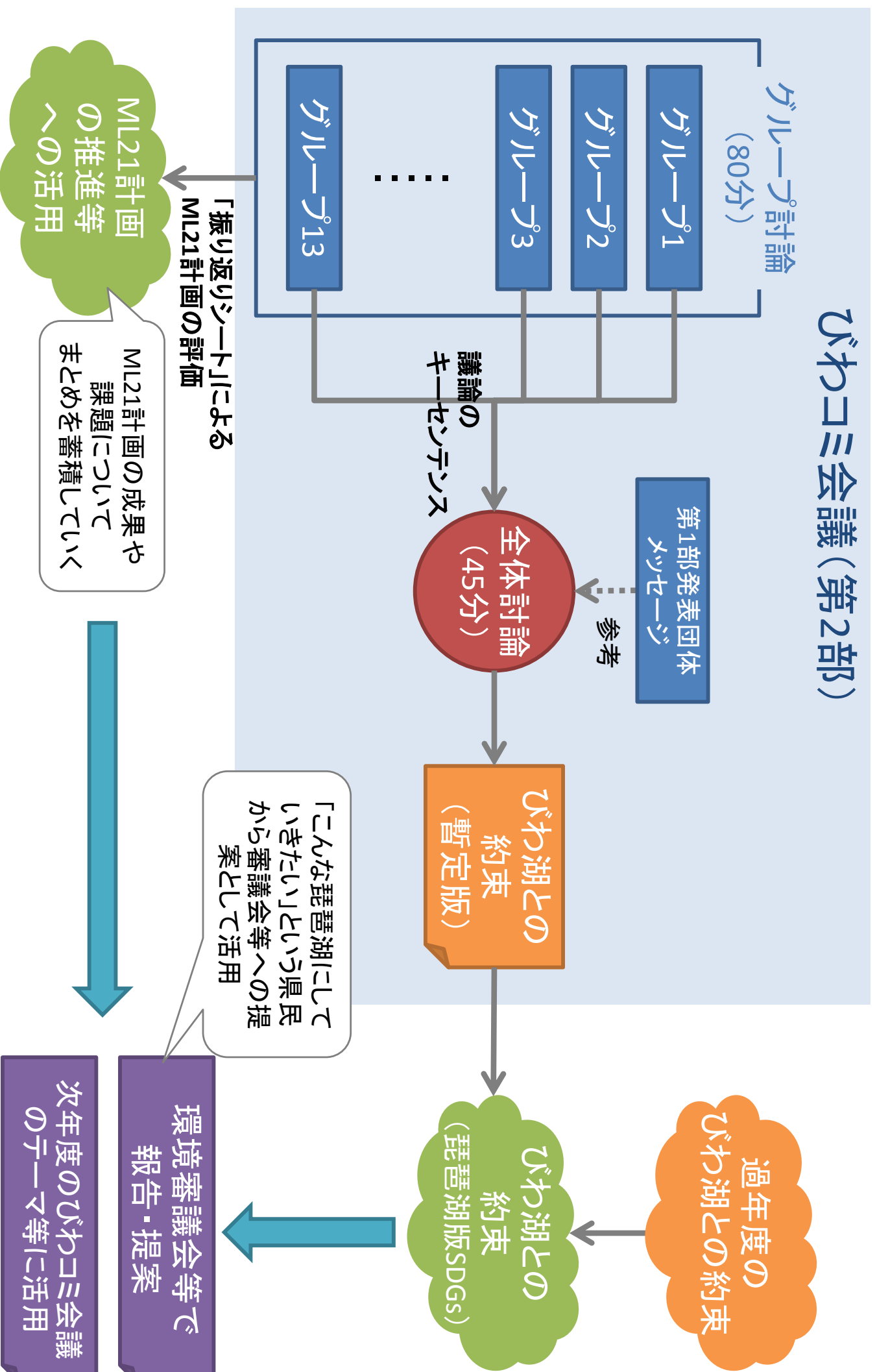
○みんなで平等に話し合おう

話し合いの場にいる誰もが対等、平等な関係にあります。年齢や立場に関わらず、遠慮せずにどんどんご発言ください。

第9回びわコミ会議 第2部の進行方法

資料5

びわコミ会議(第2部)



びわ湖との約束(びわ湖版 SDGs) 2019 年度版



マザーレイクフォーラムびわこ会議において提示されたマザーレイク21計画(第2期)の評価結果(第4～8回)

これまでのびわこ会議(第2部)において各グループから提出された「振り返りシート」を元に、マザーレイク21計画(第2期)の評価結果を項目別にまとめました。2020年度以降の計画見直し等への活用について検討していきます。

3章 2 暮らしと湖の関わりの再生

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	各地区では意識の高い住民によって生態系保全活動が実施されている。今回のテーマ参加者の例でいえば、家棟川を見直す動き(NPO法人家棟川流域観光船)や水田に生き物のにぎわいを取り戻す動き(小佐治環境保全部会)が活動を行っている。	シズンサイエンス(市民参加型科学)の活発化がのぞまれる。そのためには上記のような各地域で行われている個別的な活動の成果をオンラインにすることで各活動が活性化されるだけでなく、琵琶湖の保全活動にも幅と深みが増すものと考えられる。	「楽しみ」や「遊び」で琵琶湖に関わっているひと(遊漁、鳥の観察、湖水浴など)も多くと思われるが、統計値から漏れているものが多い。魚でいえば、漁獲量だけでは資源を正確に評価できない。市民団体の活動の契機は、「楽しみ」や「遊び」の延長や発展ではないかと考える。こうした人々の「楽しみ」を増やすことがさらに琵琶湖をよくすると考える。	8. 語り合おう！野洲川流域の人と自然のつながり	地球研栄養循環プロジェクト	第5回

4章 3 計画目標

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	各地域フォーラムやネットワーキング団体における地域内外の交流・つながり・協働	各地域フォーラムなどにおける地域内外の現在の交流・つながり、協働から、琵琶湖流域全体のことを念頭においた活動への発展	つながりを支援するつなぎ役の存在と役割について	9. 川と人、人と人をつなぐ地域活動について	淀納所桂川愛護会 河川レジャー(淀川・琵琶湖)	第4回

5章 指標

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	・多様な主体が話し合う場づくり(マザーレイクフォーラム、びわこ会議など) ・「近い水」のある暮らしの再生に向けた各種取組(環境学習の推進、農林水産業の活性化など)	・取組が果全体で見ればまだ一部にとどまっていること。 ・右けん運動のような県民総ぐるみの取組にどのように発展させていけばいいのか？	科学的、客観的なデータを総合的にまとめ、いく努力はなされているか、一方で人の感覚に関する検討はほとんどなされていない。例えば、CODやTN、TP、(沖井の)透明度で表される水質の状態と、人が感じる水の善し悪しとは、必ずしも一致しない。その違いにこそ問題の本質があるのではないだろうか。人が琵琶湖をどう感じているかという主観的な指標も、数多く集めることで琵琶湖の別の側面が見えてくるのではないかと。	12. 琵琶湖の「いいね！」を何で測るか？～『琵琶湖と暮らし2016』をもとに～	琵琶湖環境科学研究センター	第6回
2		今の子どもが現在の琵琶湖を「きれいだな」と言うのが心配。現場(琵琶湖)を見てもうらうことを大切にしたい。漁師を通して環境学習。	行政や研究所での資料には現場の声や現場の状態は載っていない。	14. 琵琶湖の守り人	沖島町 離島振興推進協議会	第6回

6章 1 琵琶湖流域生態系の保全・再生

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	・水草(在来種・外来種)の刈り取り ・水草の堆肥化	・水草堆肥のユーザーを拡大すること ・水草の堆肥以外の活用方法を探索すること ・水草の地域資源としての価値を高め、地域の人々の水草に対する意識を喚起すること ・水草を活用するための事業モデルとコミュニケーションを創出すること		8. 水草を活かす		
2	・外来種の水際対策 ・外来種の駆除活動	・外来種の管理責任問題 ・人と外来種のより良い共存		12. 外来種と生きられるか？	滋賀県自然環境保全課 IVUSA	第7回
3	・ゆりかご水田などで稚魚を育てる仕組み。 ・漁師が漁業資源の保護のため獲りすぎないよう配慮している。 ・科学的データ以外の主観的な琵琶湖の変化について、漁師やレジャー釣り人らは把握している(語れる)。 ・漁業者による外来魚駆除。	・湖底環境の改善など対処療法的なことでは魚介類は再生しない。根本的な改善が必要。		8. 漁師から見たびわ湖	中主漁業協同組合	第8回

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分に記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
6章 暮らしと湖の関わり						
No.2	暮らしと湖の関わり	実現に向けた課題	十分に記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分に記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	・身近な水環境に親しみ、自らのライフスタイルを見直していへる人の増加 ・びわ湖や身近な水環境への関心が高い移住者・移住希望者が増えている ・山から引いた水を使って染色・機織りをし、それを生業にしている移住者がいる。排水に気を使い、人工染料など、環境に影響のある排水はしない	・びわ湖が好きで、びわ湖の近くに住みたい希望者がいる一方、地元では受け入れ態勢がまだまだできていない。多種多様な暮らし方、考え方を受け入れる姿勢が薄い ・地元と移住者をつなぐコーディネート機能、地元や地域のキーパーソンとなるべく人材と人材育成が必要		3. 移住者から見た滋賀・びわ湖	長浜市移住定住促進協議会	第8回

7章 1 「近い水」のある暮らし再生プロジェクト

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分に記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	「近江水の宝」調査活用に関する事業 http://www.pref.shiga.lg.jp/edu/sogo/kakuka/ma07/treasure_of_water/	地域を代表する名勝・古利レベルの有名な「宝」に関しては、その選定に多くの人が賛成すると思います。今回の話し合いでできた宝は、このような有名な宝も含みますが、一方で個人の体験にもとづいたより小さなスケールでの宝や無名の宝も入っています。後者の宝をどう伝えて守っていくかが今後の課題ではないでしょうか。				第4回
2	P.40、4行目 琵琶湖に感謝する「飲水思源」については、近畿の水脈として認識されている。		・「内容・主な施策（p.40）」に「泉域を越えた流域連携事業」の記載が必要 例：グラントの助成金など、上下流連携の事業に対する支援 例：指標として、ワザレーイク・淡海の川づくりフォーラムへの他府県団体の参加数	6. 琵琶湖・淀川水系での上流と下流がつながるには？	NPO法人 蒲生野考理倶楽部 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会	第4回
3	P40、4行目 琵琶湖に感謝する「飲水思源」については、近畿の水脈として認識されている。	・飲み水、生き物、食べ物、災害などで上下流（流域）は繋がっているが、そのことに気づく仕掛けがない。 ・びわ湖や滋賀の魅力の発信がまだ不十分	琵琶湖の魅力の発信や、様々な取組みに関する発信の記載が不十分。また、特に琵琶湖の課題が、下流域域に知られていない。	3. つながるための方法を考えよう ～市民レベルでどうつながるか～	NPO法人こどもテート（琵琶湖・淀川流域圏連携交流会）	第5回
4	琵琶湖の周りのサイクリングや、琵琶湖での水泳などで、運動と琵琶湖がつながっていること。	より水質を改善させ、更に素敵な景観を取り戻すこと。最も琵琶湖を体験できる琵琶湖沿いを歩くということを広めていくこと。		11. 体験で得られる5つのK ～健康・環境・観光・啓発・感動～	(株)エフアイ びわ湖チャリティ～健康・環境・観光～啓発・感動～100km歩行大会	第5回
5	ワザレーイク21計画の「つながり」への配慮」にかか成果指標の一つ「自分の住む地域の洪水ハザードマップを知っている人の割合 H32年100%」にむけ、H26年3月に制定した流域治水条例において、宅地建物取引時に水害リスク情報を取引の相手側に提供するよう努力義務規定を設置した。	水の楽しさと怖さの両方の性格を県民の皆さんに知ってもらい、「近い水」を実現するためには、環境活動と治水・防災活動を結び付けていく必要がある。	都市計画・まちづくり（人がどこに住むのか）に関する記載されていない。	12. どうやって水害から命や財産を守る？	滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室	第5回
6	・県、市、集落レベルにおいて、市民参画の下、目指すべき将来社会の姿に関する議論や共有が行われている。（MLFフォーラム、持続可能な滋賀社会ビジョン、東近江市環境円卓会議、高島未来円卓会議、蒲生地区まちづくり協議会など） ・農家レストラン、6次産業、農家民泊、エコツアーなど、地域の人による地域の資源を活かした仕事づくりが活発になっている。（あいどうふくしモール、高島未来円卓会議など） ・地域ぐるみでの世代間教育、環境学習、体験など、様々な学びの場がある	・目指す社会のビジョンづくりは盛んであるが、各主体が行動できるビジョンにはなっていない ・休耕地と農業参入希望者を繋ぐ公的な仕組みが必要 ・地域資源の価値の見直しが必要「ないものお祭り」から「あるもの探し」へ	・モノやお金ではなく、心が豊かな社会を目指していくことが、結果的に琵琶湖の保全・再生にもつながっていくという視点が十分描かれていない。	13. 人口減少を見据えた豊かな滋賀づくりについて	滋賀県企画調整課 滋賀県琵琶湖環境科学研究センター	第5回

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
7	「近い水のある暮らし再生プロジェクト」という意味では、昔情豊かな琵琶湖辺での文化と自然をうたいこんだ「琵琶湖周航の歌」は、地元住民はもちろん琵琶湖に実際に触れることの出来ない県外の人たちにとっても馴染みの歌である。過去100年の周航の歌をつないできた人びとの意識と伝統は大きな財産である。今、自転車やマウンテンなどの「琵琶湖一周」ビワイチのハシリがまさにポイントによる琵琶湖周航＝水上ビワイチであり、これは貴重な蓄積といえる。	琵琶湖周航100年目の「なぞり周航」をきっかけにして、多様な水上スポーツの関係者、またビワイチマウンテンやサイクリングなど琵琶湖一周型のスポーツを結集し、地元の人たちも巻き込んだ「県民参加の琵琶湖周航」を実現。 ・県民参加の周航実現のための熱意をもった事務局体制と組織づくり ・上記をささえるための予算と財政的措置 ・社会的発信のための戦略とその実践 ・東京オリンピックの文化プログラム(文化庁)への申請戦略		6. 『琵琶湖周航の歌』100周年とこれからの琵琶湖水上スポーツの可能性について	びわこ成蹊スポーツ大学	第6回
8	マザーレイク21計画の「近い水」のある暮らし再生プロジェクトに含まれる、「環境学習・体験・観光などの事業の充実」として小学校などでの総合学習の場などにおいて、川の怖さを伝える出前講座とともに、川の良さを伝えるための自然学習として、実際に浅い川に入って流れを体験する流れ体験や川の生きものを観察する観察会などの体験学習を取り入れている。	話し合いの中で「昔は川でよく遊んだりしましたが、今では川は怖いもの」という印象が強くなっている」という話もあり、「近い水」のある暮らし再生プロジェクトをより進めるために、川が提供してくれる楽しい面と水害などの怖い面というものを、適切にバランスよく知っていただく必要がある。		10. どうやって水害から命や財産を守る？	滋賀県土木交通部流域政策局流域治水政策室	第6回
9	・環境学習など体験型学習 ・それぞれの楽しみ方での琵琶湖の活用(ただし、琵琶湖の保全への意識は不明)	・「保全に合った活用」が、単に楽しむことや県外から人を呼び込むことと、どこが異なり、どのような視点を織り込むべきか、整理が必要。 ・県外からの利用者と、県民との良好な関係を維持するための工夫。 ・琵琶湖の活用に関する全体像整理。(現状把握から)	・琵琶湖の活用について、計画では、琵琶湖から得られる恵みを扱う1次産業の姿は読み取れるが、レジャー利用などについては、色が薄いと思う。そのためか、県外の方と琵琶湖のつながりをどうするのか、が明確にされていないと思う。	11. 琵琶湖保全再生法成立～国民的遺産「琵琶湖」を未来に、私たちができること～	滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課	第6回
10		私たちは琵琶湖の水によって生かされているのだから、琵琶湖が人々にとって身近なもの・自分事とならないといけない。多数派が強くなるという県民性(国民性)があるが、自分が大切だと思ふ事を世界へ発信すべき。		15. 映画「マザーレイク」が滋賀県・琵琶湖にもたらしたもの	マザーレイクの会	第6回
11	伝統文化としての筏の復活。	・まずは多くの人に筏のことに興味を持ってもらうこと。 ・ロープの映像等を使った、筏に関する情報の積極的な発信。		1. 文化から見たびわ湖	京茂組	第8回
12	・「うみのこ」という共通体験をもとに、「人と人」「ふるさと」と人と人がつながり、郷土を愛する思いや琵琶湖を大切にしたいという思いを共有している。 ・「うみのこ」での体験(島のや周りの景色の展望)をもとに、多くの県民が琵琶湖のすばらしさを実感している。	・環境学習で培った思いや考えが、琵琶湖を守るという行動につながらない。社会教育や生涯教育の場面で、人々が学ぶ機会を得られる仕組み作りが必要。	環境学習についての内容(学校教育に関わって)→学習指導要領に学習内容が規定されており、一律に表記することは困難だと思います。	2. うみのこが見続けられてきたびわ湖	びわこローテーションスクール	第8回
13	●子どもたちの体験の場の提供などにより、「暮らしと琵琶湖との関わり」を再生する機会を提供しています。			5. 世界農業遺産からみたびわ湖	滋賀県農政水産部農政課	第8回
14	「地産地消や環境への負荷の小さいグリーン購入の推進」については、県産農林水産物の販売促進が行政や民間において実施されており、またグリーン購入の推進についても以前よりSGPNや参加登録事業者等が実施している。	環境配慮商品の購入が奨励され、またその重要性は認知されつつあるが、なかなか実際の購入に結びついていない。	経済的な視点がほとんど記載されていない。環境に配慮した商品やサービスが消費者に選ばれ、それを作る生産者が増えるといった「環境と経済の好循環」の実現のためには、農林水産部局だけでなく、環境部局も経済循環に配慮した施策づくりを行う必要があるし、民間企業との積極的な連携など必要になってくる。環境保全のベースの上で社会・経済が持続可能となるために何が必要なのか、部局連携、官民連携で取り組んでいかなければならないと思う。	6. 消費者	マザーレイクにありがた実行委員会	第8回

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	担当団体	びわこミ会議
15	「暮らしと湖の関わり」の再生」＜個人・家庭＞ 十分に達成できているとは言えないものの、話し合いでも挙げたが、滋賀県は特に、市民が自発的に琵琶湖の保全に取り組んでいることが多いと感じた。また、同テーマルに参加された霞ヶ浦市民協会様の話を聞き、環境保全に関するNPO等の活動団体も、他府県に比べて多い、ように思う。	「暮らしと湖の関わり」の再生」＜個人・家庭＞ 琵琶湖の環境保全に関わる市民の意識は高い。それでもなお、琵琶湖の環境保全や再生活動が進まない理由のひとつには、観光等で一時的に琵琶湖を訪れた市民を巻き込めていない現状があると考ええる。今回同テーマルで参加されたベトナムからの参加者たちは、「琵琶湖はとても綺麗だった」と良い印象を持っていたが、興味関心がなければ、眺めてもらうこともない。観光客等に、環境の分野でいかに琵琶湖に興味関心をもってもらうか、これがひとつの課題と考える。		滋賀県琵琶湖政策課 ILBC	第8回
16		・漁師の肌感覚を伝える難しさ。	・子どもだけでなく大人も対象とした、漁業資源の現状や漁師の肌感覚について知る・学ぶ・発信するための取り組み、子供の環境学習について、「やまのこ」や「たんぼのこ」は林業や農業に関係する学習であるのに対し、「うみのこ」は漁業との関連が薄いのではない。	中主漁業協同組合	第8回
17	・観察会（各団体や施設などでの実施） ・HPやSNSでの情報発信	・県内各地での自然観察会（県が主催となり多くの県民が共通に体験できるもの）	9 水鳥から見たびわ湖	日本野鳥の会滋賀	第8回
18	＜個人・家庭＞海外からのお客様があると、まずは琵琶湖に連れていき、カヌーなどのアクティビティや乗船などで湖に触れていただく機会を提供している。 ＜企業＞外国人から見ると琵琶湖の評価は非常に高い、背後に迫る山々と湖の距離が近く、かつ民家が隣接しながらも美しく静蔵な雰囲気を持えた湖は世界にもあまり類がなく（釣りの方談）、外国人向けの釣りやエコツアーなどは現在でも大変人気がある。	「海外からお客様を呼ぼう」という気運が高まっているのは良いが、数を追う広報活動に対して、訪れてくたさった人ひとりをどうやってもでなそうか、楽しんでいただくか、という観点からの魅力的なアクティビティの整備や、分りやすいウィッチリやすい多言語情報の提供などはいまだ不十分と感じられる。SNS等の手段により、ある日いきなり多数の人が押し寄せ、住民の日常生活に支障をきたすような事態も十分起こりうるため、美しい琵琶湖と静かな日常とのバランスを加味したうえで事業を提供していくことを心掛けていくべきだ。	12 外国人から見た滋賀・びわ湖 Tour du lac事業部	ピースインテナーショナル	第8回

7章

2 琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	担当団体	びわこミ会議
1	・水草の有効利用 ・水陸移行帯の保全・再生 ・在来生物の保全	企業主体ということで、環境保全は景気変動に大きく左右される（利益にならないので）	5. グループテーマ 生物多様性に配慮した企業のCSR	湖南・甲賀環境協会／NPOびわ湖環境	第4回
2	・早崎内湖再生検討事業・内湖再生ビジョン ・環境・生態系保全活動への支援に関する事業 ・豊かみな生き物を育む水田づくりに関する事業	・内湖再生計画地における地権者をはじめとした関係者の合意形成 ・内湖の役割、再生に向けた事業についての効果的な情報発信、情報交換の場づくり ・今の時代に即した内湖のあり方（管理・運営手法を含む）についての研究・協議	8. 内湖の復活について ・計画では、「内湖再生」とあり、内容や指標を見ると、「内湖機能の再生」を考えているようにも見えるが、計画本文ではそのような記載は見当たらない。 ・そのため、計画書p.44～45の記載がらぐいような印象を受けてしまう。 ・なお、今回のグループテーマは「内湖の復活について」であり、「内湖機能の再生」については議論されていないので、ご注意願いたい。	びわ湖の水と地域の環境を守る会 NPO法人家棟川流域観光船	第4回

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
	・外来水生植物の機械除去→大規模群落の減少(特に守山市) ・国レベルでの取り組みについて(琵琶湖保全再生法)	・外来水生植物の市ごとの意識の違い 水草が繁殖している地域ごとには処理を行うが焼却処分は市の焼却処分場で行なっていることから、外来水生植物の除去に対する意識の違いにより、受け入れられていたきやすいか、しにくいかが異なっている。 ・外来水草の除去後の焼却処理費用の負担者について意識の違いもあるだろうが、除去を行えば焼却費用は高くなるでしょう。小さな群落であるうちに除去活動を行えば焼却費用は少なく抑えられることから、小群落のうちに除去を行おうと思うイベントアイデアにはなるかもしれないが、大規模群落になってしまった後は、除去を行うことをためらう原因になってしまう。 ・大規模除去活動後の乾燥させた水草の除去について大規模除去活動を行った後、水草を乾燥させるが、乾燥後の水草の袋詰や運搬に大規模除去時ほどの人員を割くことができず、処理が長期化することが多い。 ・除去後焼却処理しきれない現状について 現在除去後は焼却処理しか方法がないが、除去後の水草の再利用方法を模索しなければ、多くの団体の協力が得にくい。利益や効果がでる再利用方法が見つかれば、企業や団体も参加しやすくなり、活動の幅が広がることを期待できる。	・小規模群落の除去数を「水草の異常繁殖への対策」として入れる。理由としては大規模群落に成長するのを予防する事ができた成果として扱うことができる他、小規模なうちに除去を行う必要性を訴えることにも繋がるため。(P43) ・内湖の利用状況について。→再生させた後、どのように利用されるのが望ましいのか記載されていても良いかもしれない。(P44)	1. 学生とともに考える。～びわ湖の新たな脅威と未来～	NPO法人国際ボランティア学生協会	第5回
3				2. 持続可能な取り組みにするには？	須原魚のゆりかご 水田協議会 滋賀県農政課	第6回
4		現在、魚道の設置は地域共同の難しさとゆりかご米の知名度など様々な課題があり、思うように進んでいない。設置側の課題として、魚道の設置後の活動の継続や米の販売の仕方があり、この問題を解決するには魚のゆりかご水田のマップが制作者に理解してもらう必要がある。たとえば、ニエロフナと米をセットで販売し相乗効果を得ることや化学肥料の減少で環境負荷の少ない米としてブランド化を進めることなど。				第6回
5		ブライクラフスなど趣味性が強い外来種は県外の人から、バス釣りの楽しさを減らさないでくれという要望もあり、環境と観光のどちらかを優先すべきか、観光で稼いでいる人をどうしたら良いのかといった、なかなか答えの出ない課題がある。		8. 琵琶湖における外来種問題はどうするか？	滋賀県自然環境保全課 IVUSA びわこ豊穡の郷	第6回
	「釣り人」のグループがびわこミ会議で発信できたことは、「釣り人」の真摯な行動と意いに加え、琵琶湖河川レンジャーや地元NPO、漁協の支援・理解によるところが大きいのと感じる。「琵琶湖を愛し、フイールを大切にしたい。」という思いへの共感が追い風となって瞬く間に広がった事例であり、改めて「琵琶湖への思いが人と人をつなぎ、フイールへの思いが活動をひろげ、“近い水辺”のある暮らしにつながっていく」具体的なイメージを実感できた。また、ラieszジャケットの着用普及や航行時の自主規制・ルール順守の啓発に積極的に取り組まれていることはほとんど知られていないことであり、SNSなどあらゆるメディアを活用して「釣り人」の取り組みが発信されている事は他の取り組みにない独自性といえる。	「釣り人」の方々が抱えている“アウェイ感(敬居の高さ)”は、「釣り人」にとっでの危機感であり、同時に琵琶湖をとりまく施策を展開・推進する上での難しさを表している。一面的に報道されてしまう。 このことが結果として多様な主体の結集と協働を阻害する要因の一つになっているのではないかと考えられる。また同時に、「我々自身にも“アウェイ感”を抱いてはいないだろうか？」このことは、琵琶湖の保全にかかわる仲間の中で共有するべき問いかけであると考えます。	① 指標:フイール参加団体の種類(より広い分野からの参加をみる指標) ② 内容:琵琶湖の価値を再発見するための事業:評価に関する客観的な事例収集 ③ フイールを安全・安心に利用するためのルール、フイールを普及させる事業 (琵琶湖や周辺環境での事故状況、普及活動への参加協力団体数などの視点)	1. 釣り“人”で活かす	淡海を守る釣り人の会	第7回
7	【暮らしと湖の間わりの再生】 ＜個人・家庭＞琵琶湖一周サイクリングを通じて、身近な水環境として親しんでいる ＜生業＞湖上交通を活かしたショートカットサイクリングの実施 ＜地域＞寄り道サイクリングやピロイチ・テラスにより、地域の文化を体感する	スポーツサイクリングとしての「ピロイチ」から、地域を楽しむサイクルツーリズムへと転換・発展することが必要。そのためには、上記取組の進化と深化が必要	「琵琶湖一周ウォーキングの推進に関する事業」と同様に、「ピロイチ・サイクルツーリズム」の推進に関する事業を記載する必要があるのではないだろうか。	4. ピロイチで活かす	ピロイチ推進室	第7回

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議	
8	参加者の意識が高く、日々の生活の中で琵琶湖の環境に対して意識している方が多かった。そのため、身近な水環境と親しみ、自らのライフスタイルを見直すことはできていると感じた。具体的な行動としては、食器用洗剤に米ぬかを使用した、体験学習の場を提供する仕事をしている人がいた。	近年、子供が水に親しむ機会が減っているとの意見が出た。小学校などでは、琵琶湖で泳ぐ行事がかつては開催されていたが、近年は保護者からの反対意見等もあり開催されなくなったことだった。琵琶湖の水質については、悪化していることはないと思うが、琵琶湖は汚いというイメージにより、琵琶湖と親しむ機会が失われている。このような人々の意識を変えていく必要がある。	滋賀県のみ、もしくは周辺地域だけに限定されていて、関西近郊ならびに他地域への琵琶湖の環境への取り組みについての発信や他地域への環境学習誘致が十分されていないため、他地域から見た琵琶湖や滋賀県の環境取り組みについても、記載して比較し、評価も行って然るべきである。	琵琶湖の魅力を国際化に活かす	琵琶湖保全再生課	第7回	
9	体験型の環境学習の推進、古より都がおり、文化も根付いている琵琶湖。また環境問題と向き合ってきた、自然を取り戻してきた琵琶湖の過去や現在の歴史。そして、様々な生物が住み、自然環境にも恵まれている琵琶湖の特性を活かした、「19みのこ」やエコツアーなど体験学習の環境は整っている。そのため、琵琶湖の魅力については海外に充分受け入れられる。	広報・啓発の実施 広報活動の啓発をさらに魅力有るものにするために、現地の人だけでなく他府県、海外から訪れた人からにもPRしてもらえそうな広報活動の促進や連携などをする。そのためには、海外や他近郊の地域との環境学習の相互体験交換会などの実施をして、より深く魅力ある「琵琶湖」の中間を知ってもらう。		琵琶湖の魅力を国際化に活かす	NPO法人蒲生野考 現員兼部（琵琶湖・淀川流域圏連携交流会）	第7回	
10	「ザーレイク21計画の「近い水」のある暮らし再生プロジェクト」に含まれる、『環境学習・体験・観光などの事業の充実』として、小学校などでの水害に関する出前講座とともに、川の良さを伝えるための自然学習として、実際に浅い川に入って流れを体験する流れ体験や川の生きものを観察する観察会などの体験学習を取り入れている。	昨今、全国的に豪雨災害が発生していることから、水害に対する意識が高まっていると思われるが、川などの水辺を危険と感じ、水辺との距離が遠くなることも考えられる。話し合いの中で「水害の発生している時間」というのは、1年の内の2〜3日程度のことであり、そのために水辺から距離を取るのには寂しいことだ」という話もあり、「近い水」のある暮らしのために、水辺の楽しい面と怖い面について、適切かつバランスよく知っていただく必要がある。		9. 水害と生きる	滋賀県土木交通部 流域政策局流域治水政策室	第7回	
11	多様な主体との協働により、「せっけん運動」という滋賀ブランドを発信している。	「せっけん運動」を「近い水」のある暮らし再生プロジェクトにもっと位置付けていきたい。家庭排水による化学物質のびわ湖への流入については、まさに暮らしの再生が必要。今回分科会の話し合いでは、企業の福利厚生などの利用の可能性も出てきたので、企業との協働の機会も今後積極的に探るべきと感じた。	41ページ 項目名「近い水のある暮らしプロジェクト」 ・環境学習・体験・観光などの事業の充実→家庭排水に関する学習会の推進 ・地産地消や環境への負荷の小さいグリーン購入の推進→せっけん運動の歴史があるが、せっけんをはじめとする環境に負荷のかからない洗剤利用の促進がない。 ・暮らしと琵琶湖の水環境関連調査→PRTR登録の化学物質の流入調査 指標も「家庭排水に気を付ける家庭の割合」のみだと弱い。家庭におけるPRTR登録化学物質の割合などが入れられないが。	13. せっけん運動を活かす		ぐるぐるびわ湖プロジェクト／特定非営利活動法人碧いびわ湖	第7回
12	「琵琶湖周航の歌」の記念歌碑が琵琶湖辺には7か所あったのが今年長浜にできて8ヶ所になり、記念碑的な場所の存在が改めてクローズアップされた。また周航の歌の価値や意味も100周年企画で滋賀県内外にかなり広まった。一方で、自転車のバイクも定着しつつある。これを機に「周航観光」や「周航スポーツ」とバイクをセレクトにできないか。	① 歌碑がある地元でも意外と歌碑の存在が知られていない。またバイクも今回の発表にもあったようにひろがりが弱い。この両者をつなぐには、それぞれの地元での愛好者やコーディネータ的な人のつながりをつくり、恒常的組織として定着させることが一つの課題である。 ② そのためにも、「毎年音楽祭を開催する」というエポックをつくることで、人の輪を、特に若い人たちの間でつくること がひとつのストラップとなるであろう。		15. 琵琶湖周航の歌を活かす			
13			・生きものの生息基盤となる琵琶湖の底質のモニタリング指標 ・外来生物等対策に資する研究事業の推進（環境変化による在来種から外来種への置き換わりなどのメカニズム解明）	4 釣り人から見たびわ湖の変化	びわ湖エコアイディア倶楽部 淡水を守る釣り人の会	第8回	
14	・カウウ協議会	・生き物の生息に配慮した水位変動（急激な水位変動による繁殖への影響、ガンカモ等の飛来時期の採餌場所確保など） ・水鳥の生息地としてのヨシ原の保全管理（繁殖期のポート接近規制、ヨシ原への立ち入り制限）		9 水鳥から見たびわ湖	日本野鳥の会滋賀	第8回	

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループリーダー	担当団体	びわこミ会議
15	外来植物への人での駆除 子どもへの環境教育	駆除にたずさわる人 発信力		13 よそのから見たびわ湖	NPO法人国際ボランティア学生協会 (IVUSA)	第8回
16	・水草の刈り取り事業と水草堆肥の無償配布 ・学生ボランティアが楽しみながら特定外来沈水植物(オオバナミズキンバイ等)を駆除する取り組み ・水草堆肥のハーブキット等への商品化	・水草の堆肥以外の活用方法の開発		14 水草からみたびわ湖	チーム水宝山	第8回

7章 3 森・川・里・湖のつながり再生プロジェクト

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと		グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
1	汚濁水を琵琶湖にできるだけ流さないようにする(琵琶湖のリンや窒素の濃度が下がっている)。 2 環境こだわり農業を行い、農薬使用量を減らす。	グループリーダーで報告された「琵琶湖の環境は皆の生き方の水鏡」の通り、びわ湖に関わる地域住民全ての生活態度・意識の持ち方で琵琶湖は大きく変わる。(良い方向にも悪い方向にも)			2. 源流管理で環境いきいき琵琶湖！	白鳥川の景観を良くする会	第4回
2		湖や川に生息する生物の配慮を考える。 消費者と生産者との意見のやり取りの場が必要。 環境こだわり農産物を選んで購入する(しらべよう)ようにする。			2. 食べることで、びわ湖を守る。 ～環境こだわり農産物～	滋賀県青年農業者クラブ連絡協議会	第5回
3	・琵琶湖流域生態系の情報収集 ・生態系保全の重要性についての情報の発信 ・ヨシ群落の再生や外来種駆除といった「自然が豊かで身近だった時代」の環境再生に向けた行政主体の取り組み	琵琶湖や川など身の回りの自然を身近に感じるための取り組みが不十分			6. 生き物に配慮した川づくり～行政と地域社会、NPO等との連携～	古橋のオオサンショウウオを守る会 滋賀県長浜土木事務所木之本支所	第5回
4	琵琶湖がきれいになる→森を守る→森を管理する→計画的な伐採・植樹→木材を活用する→家づくりに使っていく(木造)→木材の成長に似合った加工・技術→技術の継承→寿命の長い家づくり。結局、現代の短命で廃棄するサイクルの短いものは建てないほうがいい。	木材協会等、県産材の活用に関心をもち、技術の継承にも力を入れるべきです。短命で土に返らないものは、使わないと決めたほうがいいと思う。			10. 企業よし、生きものよし、地域よし「びわ湖三方よし」に向けて何が出来るか？ +びわ湖の森をぐらしの中へ	一般社団法人 滋賀グリーン購入ネットワーク事務局 A-Site	第5回
5	米原市ビワマス倶楽部や家瀬川ビワマスプロジェクトなど、多様な主体が協働してビワマスの保全・再生に向けた取り組みを行う事例が出てきている。	・密漁がビワマスの数を減らす原因になっている。調査や散歩などで川に人の目が入ることや密漁をしつらい雰囲気をつくるのが大切、密漁者も仲間にしてしまうくらい的心意が必要。 ・また新たなルールをつくり共有していくことが必要。			1. 天野川ビワマス週上プロジェクトつながる	米原市ビワマス倶楽部	第6回
6		・今まで人間の暮らしを支えてきた山や里が今やお荷物となっていることや山に起こっている問題に対して危機感を持っている人が少ないという現実がある。この現実に対して、改善していくには中山間から問題を発信すべきであり、中山間の中の人々も協力して考えていく必要がある。具体的な解決策として、中山間地域で再生可能エネルギーを上手に使うことや子供達に山や里とどう関わっていくかを教える環境学習を行うこと、林業で活性化を図ることなどが挙げられる。 ・今、里の人は山に関心がない、山に人が入らないようになつたし、人が木を使わない、山はあって当たり前前意識があり、山の価値問題を知らない人が多い、林をうまく使うことが重要であり、単体で動くのは難しいが、そういった企業や技術が増えれば、林業に関わる若い人が増えれば、価値を見出していくことも可能である。	中山間地域における人口減少問題について。中山間地域に人を増やす方法として、地域の1%ほどの割合の新しい世帯を毎年呼び込むこと(うちまぐい)ことが分かっている。その世帯を呼び込むためにできることとして中山間地域で暮らすことや魅力的なライフスタイルであること、その提案を行うことが考えられる。		3. 森と遊び、未来を拓く	株式会社農業滋賀地方自治研究センター	第6回

No	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
7	環境下でわり農業の支援事業や、豊かな生き物を育む水田づくりに関する事業、また、自然観察会の実施など、トホボが暮らす環境の整備が進められている。	トホボが滋賀県にとつて縁のある(県内に100種類が生息し、琵琶湖文化館のキヤラクター「あきつ君」はトホボであり、屋根のモニエムンボトホボ)昆虫であることの県民への周知や、ビオトープネットワーク構想の企業などへの更なる協力要請などが必要ではないか。	森・川・里・湖のつながりを表す生きものとしてホテルやサウナを取り上げられているが、ヤゴは水環境で、また成虫は山や里で暮らすなど森・川・里・湖のつながりを表す環境指標として、滋賀県内に100種類が生息するトホボを取り上げることが有効ではないか。	2. 湖東地域の連携を活かす！	生物多様性 湖東地域ネットワーク(旭化成住工株式会社)	第7回
8	該当なし	なぜヨシは使われないか？ヨシが利用されるためにはどうすればよいのか？ まずはヨシ自体を知ってもらうこと。そしてデサインやランドとしての付加価値をつけることが必要。	ヨシに関しては、「ヨシ保全」についての記載があり、群落下面積の指標はあるものの、「ヨシ利活用」については記載されていない。ヨシ利活用については、ヨシ条例との整合を図りながら、記載の検討が必要ではないかと考える。	3. ヨシを活かす	琵琶湖政策課	第7回
9	<ul style="list-style-type: none"> 「やまのこ」で森林に関する環境学習は一応行われている 森林環境税が導入され、びわ湖水源の森の保全に使われている 人工林間伐施設、里山リニューアルなど、補助金がつく事業は一定程度進んでいる 木の駅、自伐型林業、kikitoなど、森林資源を活かした循環型のしくみも一部では育ちつつある 	<ul style="list-style-type: none"> •まだまだ、山地の森林が「適切に管理」されているとはいえない(ゆ.14) •特に中山間地では「琵琶湖流域保全と調和した生業の活性化(ゆ.15)」に至っていない •「地域を超えて琵琶湖流域全体のことも念頭において活動できるネットワークや協働する仕組み(ゆ.15)が、特に中山間地の地域住民の中でなかなか育っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・「流域を一つの系として保全するための取り組みの方向性を各主体・施策間で共有」(ゆ.46)するためには、林業・農業・漁業・住環境・(都市型)産業・環境教育等で統制的に構成されてしまっている各施策や実施主体間志を流域単位で積極的につなぐための人材や仕組みを継続的に育むことを目に見える形で担保することがもっとも重要なのに、そのことを担保する記述がないように思う。 	14. 水源の森を活かす	東草野まちづくり懇話会	第7回
10	<ul style="list-style-type: none"> ●在来種の稚魚の成育の場を提供し、生態系の保全再生に貢献しています。 ●排水の潮りを沈殿させ琵琶湖への流出を防ぐ効果があり、琵琶湖の水質保全に寄与しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●生態系の保全再生や暮らしと湖の関わり再生に貢献する「魚のゆめりこ水田」の取組を続けていくには、ゆめりこ水田での農業が経済的に「儲かる」ものであることが不可欠であり、ゆめりこ水田米の販売ルートの実現やプログラム力の強化をさらに進める必要があります。そのためには、「世界農業遺産」認定を目指す意義があると考えています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「魚のゆめりこ水田米」の販売促進など、経済的な持続可能性をどのように担保するか ●「琵琶湖システム」の持つ独自性や、その価値について対外的にどのように発信するか 	5 みたびわ湖	滋賀県農政水産部農政課	第8回
11			世界農業遺産登録に向けた取り組みの中で、農業と漁業を関連付けた琵琶湖の価値の発信。	8 漁師から見たびわ湖	中主漁業協同組合	第8回
12	琵琶湖森林づくり県民税の導入による一定の財源確保、および県民の森林への関心醸成。	琵琶湖と洗堰、天ヶ瀬ダムの連携が果たしている下流域に対する治水調整機能と、そのことで琵琶湖流域に掛かる負担について、上下流住民が知りあい、上下流の相互理解をより図る必要がある。		10 リーダーから見たびわ湖	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会	第8回
13	<ul style="list-style-type: none"> ・水源に近い山間部では、汚水を送らないなどのスタイルが昔から暮らしの中に息づいている。滋賀の森林面積は広いが、各地で里山にかかわる活動もされている。森林にたずさわる団体や、竹林面積の増加に対し整備などで取組んでいるグループなどもある。21計画で見ると、環境学習に関する取組みが進んでいると感じる。 ・施策の構成では、環境学習・体験・観光などの事業の充実の施策はおおむね広報などができているように感じる。水陸移行帯の保全・再生について、経過は課題がありそうだが取組めていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町で暮らし人々の現実から森林は遠く、関心がまだまだ低い。森林の保全・再生に関わってほしい体力のある世代にも森林への関わりがほしい。子どもへの教育はかみではなく、そういった世代へのアプローチが必要。林業にたずさわる人が増えるような仕組みづくりと、昔の暮らし方や文化の伝承することも今後は大切になるのではないかと、など意見が出た。 ・森林の保全・再生は、事業はたくさんあるが、たずさわる人に偏りがあり、もっと多くの人がかかわれるような仕組みにすることが課題だと意見があった。山の環境が変われば、すべての暮らしにかかわるといのが参加者の認識。県産材については、価格と流通の量と情報にも課題だと感じる。 	P47, 48の内容について 南湖の生きもの、という記載は何か所かあるのだが、森林や山間部、また流域の生きものについての表記がないことが気になる。森づくりにも動植物の関わりは大きく、生態系への関心も大きいと感じる。湖や水田などの生きものだけではなく、森里川の動植物の記載があれば広がりと感じる。	11 水源の森から見たびわ湖	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会	第8回

8章

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	担当団体	びわこミ会議
計画の実効性の確保					
No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	担当団体	びわこミ会議
1	琵琶湖を愛する思いを抱くことが、あるべき姿を実現するための行動につながり、ひいては、つながりを広めていくことで課題を共有することの重要性を実感していること。	関心のない人々に対して琵琶湖の現状や保全の取り組みを知ってもらい、関心を抱いてもらうこと。	琵琶湖を保全することが、自分たちにとって、日常生活のレベルでどのように目に見えるメリットがあるかということ。	1. 若い私たちの環境への思い	滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課 第4回
2	「ササレーイクラフォーラム」の開催	・下記箇所を担う人材（地域コーディネータ）の育成と、継続的雇用を保障する財源形成 「こうしたさまざまなレベルにおいて、多様な主体が参画可能な機会の提供や実践のための活動を支援する仕組みを充実するとともに、各主体間の交流を促進し、幅広い範囲で情報を共有するための機会の提供や仕組みの充実が必要となります。」（「1. 協働の視点に基づく参画・実践・交流」のリードの最終部分） ・新しい連携のあり方を構築するにあたっての行政（県・市町）の役割と規範の明確化	・目指すべき持続的な連携のビジョン ・持続的な連携構築のための戦略（人材育成と財源形成） ・「ササレーイクラフォーラム」の運営と、地域での取り組みとの有機的な連携のあり方	7. 地域の中で、NPOと行政と企業の連携をどうつくっていくか	NPO 聖いびわ湖 第4回
3	琵琶湖を愛する思いを抱くことが、あるべき姿を実現する行動につながり、ひいては、つながりを広めていくことで課題を共有することの重要性を実感していること。	関心のない人々に対して琵琶湖の現状や保全の取り組みを知ってもらい、関心を抱いてもらうこと。	琵琶湖を保全することが、自分たちにとって、日常生活レベルでどのように目に見えるメリットがあるかということ。	5. 若い私たちの環境への思い	滋賀大学 浅川小学校 びわっこ大使 第5回

8章

1 協働の視点に基づく参画・実践・交流

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	担当団体	びわこミ会議
1	ボランテアィアの連携（活動の発表・報告の場づくり）	・これに向けた、あらゆる機会を通じての教育・啓蒙と共に、改善に向けた活動が必要。 ・ボランテアィアに活動の主体をお願いするのであれば、これに対する助成と共に、一般への活動認知のための行政や地域企業の「バックアップ」が必要。		2. グループリーダー 源流管理で環境いきいき琵琶湖！	白鳥川の景観を良くする会 第4回
2	環境教育の実施。 “びわこの日”を中心とした県内各地での清掃活動。各種プロジェクトの実施。 またその指標の整理・発信。	自然に対する意識付けを考慮した環境教育の実施。 市民参加を牽引するリーダーの育成。 琵琶湖を有する滋賀県サイドからだけでなく、京都・大阪から見た“びわこ”についての情報共有。さらに連携の強化。	琵琶湖は下流域に重要な役割を果たしているだけでなく、下流域の治水や水利用が、琵琶湖のあり方にも影響を与えていることの具体的事例や取り組み、施策等の記載がもっとあっていいのではないかな。	3. 琵琶湖を支える市民参加とは	新江州（株）循環型社会システム研究所 第4回
3		・飲み水、生き物、食べ物、災害などで上下流（流域）は繋がっているが、そのことに気づく仕掛けがない。 ・特に琵琶湖の課題が、下流域域に知られていない。課題を伝え合うツールがない	・「琵琶湖淀川流域の取り組み（p.50）」に「市民団体等」との連携強化の記載が必要 例：「琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会」と同列に民間団体で構成される「琵琶湖・淀川流域圏連携交流会」や「淀川管内河川レンジャー」の活用を記載 例：「琵琶湖淀川流域で開催される、琵琶湖を知ってもらう活動」に対しての取り組みの充実」を記載 ※飲み水、生き物、食べ物、災害などで上下流（流域）は繋がっているが、そのことに気づく仕掛けがない。特に琵琶湖の課題が、下流域域に知られていない。課題を伝え、その解決に上下流の市民団体、個人が取り組みことで、課題が宝物に変わることになる。そのような企画に組み込む必要がある。	6. 琵琶湖・淀川水系での上流と下流がつながるには？	NPO法人 蒲生野考現倶楽部 琵琶湖・淀川流域圏連携交流会 第4回

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこミ会議
	・県、市、地域住民の連携による異常繁殖した外来水草の除去活動(特に守山市)	・除去を行う人員不足について 各市に様々な団体があるが、高齢化の問題が顕著に現れている。特に影響を受けている漁業関係者も高齢化しており、定期的な除去活動を行うことが大きな負担となっている。 ・新規団体の特定外来水草の除去活動を行うことの難しさ許可や処理方法等により新規団体が入りにくい。実行に移していく。サポート体制を整える必要がある。 ・環境学習としての地域住民との関わり方 オオバナミズキンバイの除去活動では高校生や留学生が参加していることがあるが、そこで地域環境団体や漁業関係者から、困っている現状や活動について生の声として聞くことによって、とても良い体験ができたと答えてくれる人が多い。こういった体験をさらに多くの児童、生徒にしてもらいたいと考えている。		1. 学生とともに考える。～びわ湖の新たな脅威と未来～	NPO法人国際ボランティア学生協会	
4				3. つながるための方法を考えよう ～市民レベルでどうつながるか～	NPO法人こどもアーツ (琵琶湖・淀川流域圏連携交流会)	第5回
5		・「近い水」のある暮らし再生プロジェクトや琵琶湖の生き物にざわい再生プロジェクトの課題と成果などをわかり易く発信することで、下流域の人にもっと関心を持ってもらうことが必要(例:琵琶湖博物館は他府県の人には知名度は低い)	課題を伝え、その解決に上下游の市民団体、個人が取り組みことで、課題が主物に変わることになる。そのような企画に取り組む必要がある。			第5回
	びわこミ会議の開催	・NPO(市民団体)の担い手の若返りのための施策 (例) NPOの活動の事業化(継続的な雇用の実現) 企業内ボランティアの育成(現役時代からの市民活動への参画) NPOと企業のコーディネートにおける学生の活動支援と地域貢献人材の雇用創出	NPOや市民活動を継承する担い手の育成(NPO活動の事業化、企業内ボランティアの育成、協働のコーディネーター活動の促進、学生の活動支援、地域貢献人材の雇用創出等)	4. 団体・企業・行政でつながりあって、それぞれの課題をプラスに転換！	<ラジック工房> 滋賀県琵琶湖環境部	第5回
6		・行政が行っている生態系再生・保全の取り組みと民間・自治会等が行っている環境保全活動とのリンク(各個人が持っている環境再生保全に対する思いを生かす仕組み)が不十分		6. 生き物に配慮した川づくり～行政と地域社会、NPO等との連携～	古橋のオオサンショウの会を守る会 滋賀県長浜土木事務所木之本支所	第5回
7						第5回
	(完全ではないが釣った外来魚はリリースしないということ)	・こういった環境学習やセミナー、環境講座などの場への参加について、一部の意識の高い方々の積極的な参加は見られる。しかし、それでは意識の高い方の意識がより高まるだけで、意識の低い人や今まで参加しなかった方についても参加してもらえないという点。 ・そういったどちらかといえば意識の低い方に参加してもらうように、開催方法などに工夫が必要であると感じた。	7. 外来魚を減らす取り組みの進捗点検とアイデア出し	滋賀県立大学環境科学部		第5回
8						第5回
	県内への情報発信:情報発信ポータルサイトの運用 等 県外への情報発信:なし	県内への発信も必要ですが、いかに県外(特に関西圏)の人に、びわ湖を自分のこととして考えたらうきつかけを作っていくかの課題です。楽しそう、驚き、共感等、びわ湖を身近に感じてもらおう切り口を工夫する必要があると考えます。 (観光誘致としてのびわ湖ではなく、命の水としてのびわ湖を伝えたい)	14. 情報発信でつながるびわ湖と市民	新江州圏循環型社会システム研究所		第5回
9				4. あなたは何で琵琶湖を感じますか？	NPO法人こどもアーツ (琵琶湖・淀川流域圏連携交流会)	第6回
10	うみのこを使った体験活動で滋賀や一部琵琶湖周辺地域の小学校や子どもたちに対し、琵琶湖に親しみ、遊びながら、琵琶湖の生態系を学ぶ活動で市民とのつながりができていること	滋賀県以外の近隣地域の小学生や親子に対し、これまで以上に広く「うみのこ」を利用した体験活動を通じた教育。そのためには、周辺地域小学生用の「うみのこ」をもう一隻行政で予算とれないか。				

No.	すでにできていること	実現に向けた課題	十分記載されていないこと	グループテーマ	担当団体	びわこ会議
11	・「サレーニアワオーム」の中で地域連携WGを立ち上げ関係者で連携のための議論や企業への働きかけ（CSRセミナーの開催）、今後の連携のための活動内容についておおよそ共有できている。 ・連携の当事者になる団体と連携を仲介するコーディネートが顔の見える関係でネットワークができている。 ・連携によって課題を解決したいという主体を具体的に把握している。	情報収集や連携の事例づくりをするための人手不足		7. 新たな連携の糸口を探す	滋賀県立大学	第6回
12	結成したばかりであるため既に出来ていることはありません。	「つながり」実現のための課題 滋賀県内での活動家のつながりの場不足、距離的要因。		6. 若者の力を活かすには	同志社大学政策学部3年生 滋賀学生コミュニケーションkaname	第7回
13	本日のテーマルによって、湖南、湖東、琵琶の活動状況と課題を共有することができた。	個人・企業・地域などの主体的な取り組みや、そのネットワーキング形成を支援する仕組みの構築 具体的な目的を持った、地域ワオーム同士の情報交流機会の創出（交流の為の交流ではない） 旧流域委員会の現況の把握（活動の有無）		10. 地域ワオームとのつながりを活かす	環境ワオーム湖東	第7回
14	・琵琶湖のことを意識している団体や個人は、それぞれの立場で、できる範囲の活動は行っている。 ・農業者は、環境保全型農業の実践や地下水を極力流さない努力。 ・消費者の意識の高い人は「食」で琵琶湖を守る活動、食育の推進、森林の保全活動、ヨシ刈りボランティア、びわ湖の日の一斉清掃など。→ まだまだ十分とは言えないが...	・他の団体や活動に対する理解が十分でない。 ・一部の活動になっており、もっと裾野を広げ、活動の幅を拡散する必要がある。 ・互いに補いあえることもあってあるのではないかな？ ・様々な生業や経済活動を行っているものが、同じ場で意見交換し、互いの活動へ理解を深める場がもっと必要ではないか。 → 「びわこ会議」のさらなる発展と深化への期待		11. 琵琶湖と農業を活かす	滋賀県農政課世界農業遺産推進係	第7回
15	「釣り人」による環境モニタリング。 ① 清掃活動を通じた「水際、水辺」の漂着ごみの記録と発信 ② 「観察者」としての釣り人が持つ環境変化の情報集積と発信の試み ③ 多様な主体との「共感」を通じた連携	取り組みの社会的な評価向上 ① 琵琶湖をフィールド（業の場）とする他の分野への取り組みの波及。 ② モニタリングの情報を活用するための手段。「環境指標」としての活用など。 ③ モニタリングの継続に向けた支援	・多様な業種からの情報収集と、指標化を実現する窓口の設置または、機能の明確化	4 釣り人から見たびわ湖の変化	びわ湖エコアライアンス倶楽部 淡海を守る釣り人の会	第8回
16	共感を通じた連携のひろがり ① 「琵琶湖」「フィールド」への愛着・思いを軸にした活動への多様な人材の協力 ② 「プロガイド」「釣り人」としての規範行動と意識の醸成 ③ 「自然観察者」としての環境変化、課題意識の共有 ④ 琵琶湖を業の場とする人々との連携を模索	・国・県・基礎自治体の情報共有および政策調整・法整備等を含めた実質的連携 ・ボランティアで湖岸清掃に取り組んでいる人の努力を顕彰する仕組み ・関係人口を巻き込む仕組みづくり	・関与主体が誰かということ	14 水草からみたびわ湖	チーム水宝山	第8回

「私のコミットメント(約束) 2018」

No	コミットメント
1	健康
2	びわ湖の四つの島を巡る
3	転んでも立ち上がる
4	人と人とびわ湖をつなげ、ふるさと滋賀にもどる！
5	We Love びわ湖
6	山からびわ湖
7	JICAプロジェクトを通じてびわ湖の取組の本質をベトナムのハロンの人々に伝えていく。
8	第5回びわ100(びわ湖チャリティー100km歩行大会)の安全な開催と昨年以上の寄付活動をする
9	もっともっと広めたい 自転車はビワイチ ウォーキングはびわ100
10	第5回びわ湖チャリティー100km歩行大会に参加して完歩する!!
11	びわ湖にイイ商品をひろめる！
12	もっともっとびわ湖を食べる。
13	滋賀の地酒を飲んで楽しむ
14	1級河川の名前を3つおぼえる。
15	月1回、びわ湖へ来るぞ
16	今年も毎日合おう琵琶湖 湖面から湖上から！
17	環境学習「うみのこ」「川の学校」「やまのこ」を「支える」学習支援をしていきたい！
18	琵琶湖疏水に沿ってずっと歩く。
19	「滋賀県」「びわ湖」の素晴らしさを人へ伝える。 キーワード:「食」「遊」
20	湖魚をもっと我が家の食卓に
21	びわ湖にビワマスをもどす
22	びわ湖を(各地から)(止まって)眺める
23	沖島に行く 100kmウォーキング制覇
24	つながりをひろげる
25	滋賀で連泊する
26	びわ湖から水源を想う
27	びわ湖を広く知らせる びわ湖の出口をつくる 洪水浸入を防ぐ 舟運に改善が進めば大きな効果が考えられる
28	びわ湖を好きな人とのつながりを増やす

「私のコミットメント(約束) 2018」

No	コミットメント
29	しあわせの輪を広げる
30	美しい琵琶湖を発信する 知ってもらう
31	びわ湖を知り、感じるため、びわ湖の魚を釣る
32	琵琶湖のふもとで2～3回家族旅行します。
33	多くの人へ案内する
34	地域に根ざした教育をサポートする
35	地下水からの栄養供給を調べます。
36	外来生物除去活動に参加する！
37	流域治水
38	びわ湖の問題を自分ごとにする
39	つながりの幅を広げる
40	びわ湖と学校、びわ湖と子どもをつなぐ
41	琵琶湖をもっと楽しむ
42	びわ湖で泳ぐ
43	琵琶湖の水位を毎日チェックする
44	もっと琵琶湖を知り、考える
45	人とびわ湖 人と山をつなぐ 歩く
46	遊びたおす
47	びわ湖を育む川でできることからはじめよう 小さな自然再生
48	里山と林業との橋渡し
49	琵琶湖の水鳥の魅力を発信します
50	カッコいい釣り人になる
51	野鳥を身近に感じられる企画(探鳥会など)を提供する
52	私達は、水鳥が琵琶湖をどう見ているか多くの人に伝えてゆきます
53	琵琶湖で学び遊び楽しむ!!
54	山の木を街の人に売る！
55	びわ湖を訪れる。 びわ湖を感じる。
56	行く、食べる、飲む、楽しむ!!

「私のコミットメント(約束) 2018」

No	コミットメント
57	オオバナ完全駆除！
58	《観察と行動》みる、考えるだけでなく動く
59	滋賀を知る
60	びわ湖をめぐる生活を楽しむ！
61	ゆりかご水田米を食べる！ 県外の方(友達)にゆりかご水田米を食べてもらう！
62	びわ湖を身近に！
63	食べる、楽しむ、汗をかく!!(湖魚を食べ、魚のゆりかご水田米(ミズカガミなど)を食べ、フナズシを食べて世界農業遺産認定を目指す!!)
64	びわ湖と遊ぶ
65	水辺のゴミを今までより拾う。
66	今より更にびわ湖を知る
67	外来生物問題以外の琵琶湖に関する問題を詳しく学ぶ
68	オオバナミズキンバイ除去活動の参加者を増やす。
69	オオバナとりきる。
70	オオバナ完全除去！ 北湖に行く
71	知識を詰め込んでいながら、色々な活動に参加して、様々な人達と協力しながらより良くしていく!!
72	東京で人に伝える 日常に広げることから……
73	森と共生できる人の輪を広げる!!
74	海外の湖をもっと訪れる
75	山や川に親しむ子ども達を増やす
76	もっと琵琶湖と関わろう!!
77	啓発活動の推進と具体化
78	5年がかりのびわ湖一周ウォーキングの完遂
79	カモガワを知る
80	MTBでビワイチする
81	さまざまな立場の方と交流する
82	
83	
84	

「近江さんすい」に寄稿を行っています！

マザーレイクフォーラム運営委員会では、平成 27 年の秋から、滋賀県河港・砂防協会が発行する季刊誌「近江さんすい」に、マザーレイクフォーラム関連の記事を随時寄稿させていただいています。ここでは、昨年 9 月以降に発刊された分についてご紹介いたします。「近江さんすい」は、県内の主要な公共施設に置いてありますので、探してみてください。

「近江さんすい」のバックナンバーの入手や定期購読などのお問合せは、「滋賀県河港・砂防協会」まで直接お願いします。

滋賀県河港・砂防協会 Web サイト：<http://www.maroon.dti.ne.jp/shigakako/>



平成 30 年 11 月号(22 号)



平成 31 年 1 月号(23 号)

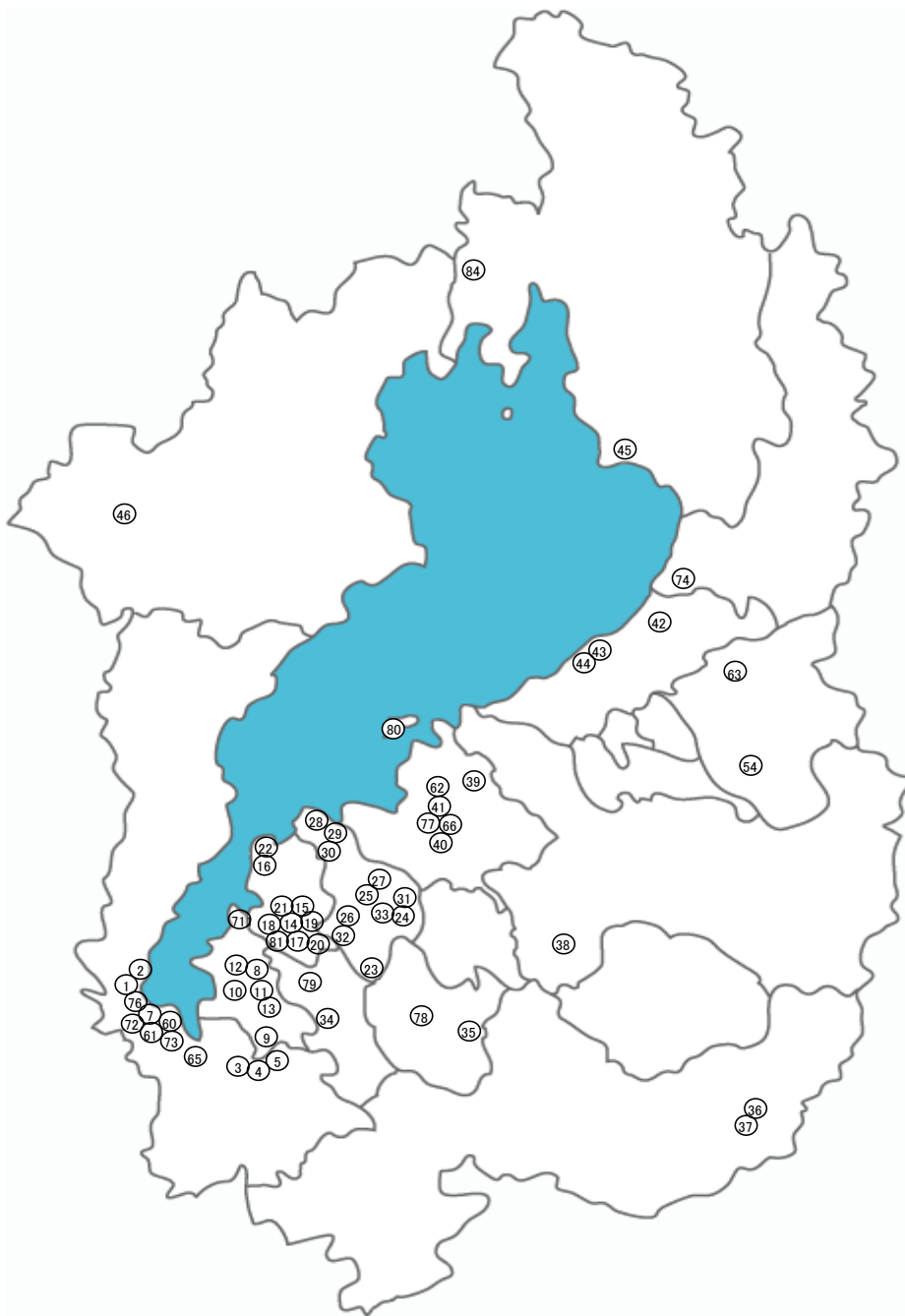


平成 31 年 3 月号(24 号)



令和元年 7 月号(25 号)

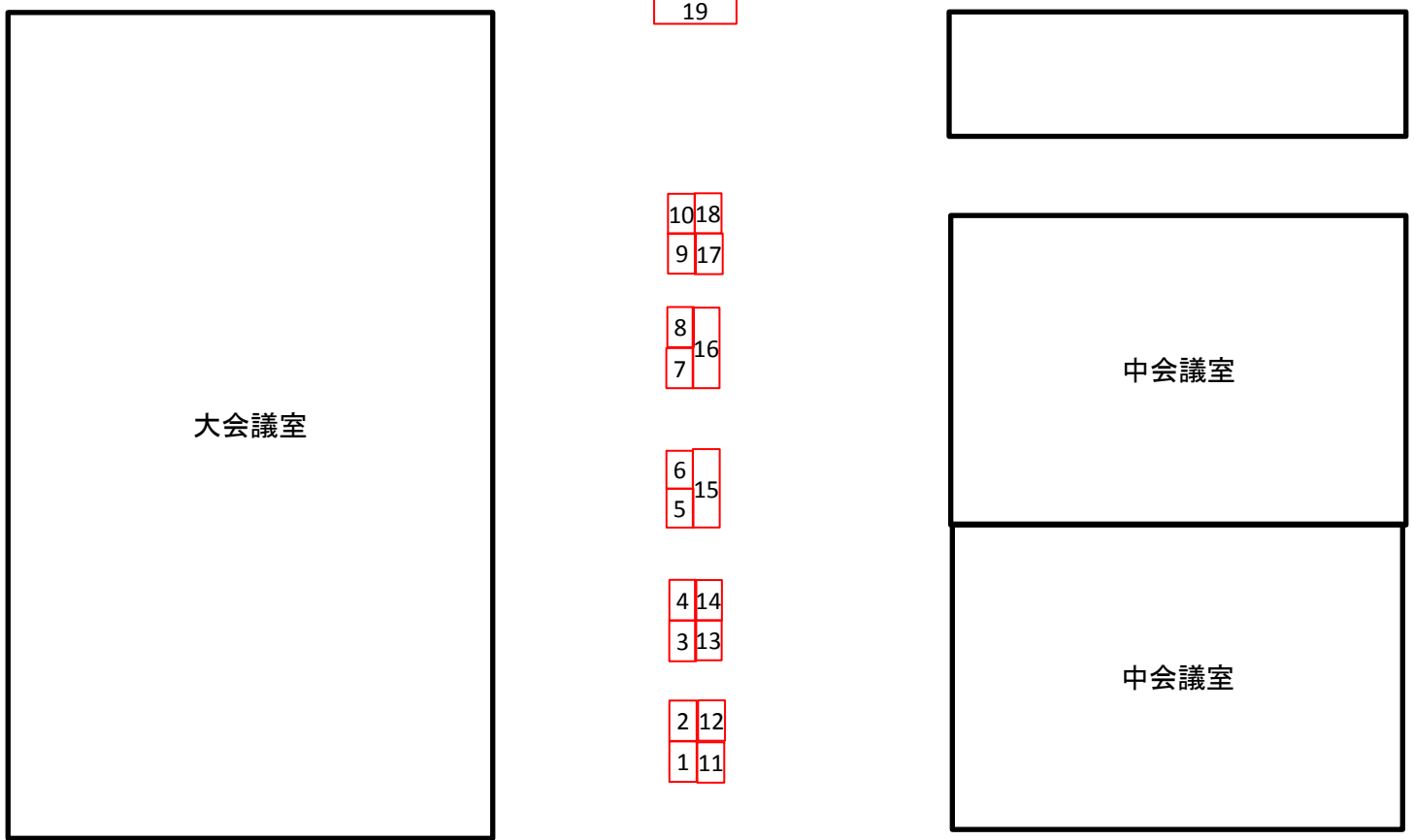
マザーレイクフォーラム エントリーシート 活動団体所在地マップ



京都市 48 64 69	亀岡市 49 63	大阪市 68 70	枚方市 51 82	泉佐野市 67
愛知県 55 56 57 58 59	貝塚市 50	甲府市 52	松山市 53	久留米市 75

番号	名称
1	特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム
2	滋賀県琵琶湖環境科学センター
3	谷内 茂雄(京都大学生態学研究センター)
4	奥田 昇(京都大学生態学研究センター)
5	中野 伸一(京都大学生態学研究センター)
6	滋賀大学「環境学習支援士」会
7	滋賀県化学・環境行政職員同友会(化環会)
8	草津でホテルを楽しむ会
9	びわ湖エコアイデア倶楽部
10	草津塾
11	NPOびわ湖環境
12	チーム一滴(Team Itteki)
13	湖南・甲賀環境協会
14	守山市ほたるの森資料館
15	レイ大目田川会(レイカディア大学)
16	木浜の資源環境を守る会
17	NPO法人 びわこ豊穡の郷
18	特定非営利活動法人 滋賀環境カウンセラー協会
19	守山湖畔振興会
20	勝部自治会
21	立命館守山高専学校 Sci-Tech部 生物化学班
22	大川活用プロジェクト
23	野洲市消費生活研究会
24	環境基本計画推進会議 自然・山部会
25	環境基本計画推進会議 エコ資源部会
26	エコロジーマーケット やすの会
27	野洲生活学校
28	びわ湖の水と地域の環境を守る会
29	須原魚のゆりかご水田協議会(せせらぎの郷)
30	NPO法人 家棟川流域観光船
31	NPO法人 環境を考える会
32	オムロン株式会社 野洲事業所
33	株式会社村田製作所 野洲事業所
34	もんべおばさん田舎工房
35	TOTO(株) 滋賀・滋賀第二工場
36	いきものみつけファーム滋賀推進協議会
37	山内エコクラブ
38	NPO法人 蒲生野草現倶楽部
39	NPO法人 碧いびわ湖
40	白鳥川の景観を良くする会(略称:景観隊)
41	株式会社 ラーゴ
42	環境フォーラム湖東
43	井手 慎司(滋賀県立大学環境科学部)
44	伴 修平(滋賀県立大学)
45	新江州株式会社循環型社会システム研究所MOH通信編集局
46	巨木と水源の郷をまもる会
47	おふみのふるさと物語プロジェクト
48	NPO法人 子どもと川とまちのフォーラム
49	カッパ研究会
50	橋本 夏次(愛知産業大学大学院造形学研究所建築学専攻)
51	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会
52	岩田 智也(山梨大学生命環境学部)
53	川端 善一郎(総合地球環境学研究所)
54	NPO法人モスグリーンEco
55	地域環境活性化協議会
56	半田こどもエコクラブ
57	東幡豆漁業協同組合
58	アジアの浅瀬と干潟を守る会
59	島を美しくする会
60	一般社団法人滋賀グリーン購入ネットワーク
61	びわっこ大使
62	八幡酒蔵工房「いまさかPJ」
63	kikito(湖東地域材循環システム協議会)
64	仁枝 洋(淀川管内河川レンジャーアドバイザー)
65	NPO法人瀬田川リバーレ隊
66	認定特定非営利活動法人しがNPOセンター
67	NPO法人大阪府海域美化安全協会
68	公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構
69	琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議
70	琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会
71	琵琶湖博物館 環境学習センター
72	魚のゆりかご水田プロジェクト
73	滋賀地方自治研究センターびわ湖プロジェクト
74	米原市環境フォーラム実行委員会
75	NPO法人太陽文化振興会
76	環境NPO みどり水のフォーラム
77	八幡堀を守る会
78	マザーレイクの会
79	びわ湖チャリティー100km歩行大会実行委員会
80	沖島町離島振興推進協議会
81	大川活用プロジェクト支援団体 haconiwa
82	淡海を守る釣り人の会
83	京筏組
84	山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会

ブース出展配置図



ブース 番号	団体名	ブース内容
1	琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会	森・里・湖(うみ)に育まれる 漁業と農業が織りなす「琵琶湖システム」 「日本農業遺産」認定！そして、世界へ！
2	公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構	飲める水 遊べる水辺 次世代に
3	滋賀県総合企画部企画調整課	滋賀応援寄附のご案内
4	地球研 栄養循環プロジェクト	びわ湖流域のガバナンス
5	生物多様性びわ湖ネットワーク	トンボ100大作戦～滋賀のトンボを救え～
6	座・沖島	座・沖島のこれまでの活動
7	滋賀県全国植樹祭推進室	第72回全国植樹祭、令和3年(2021年)春開催
8	家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト	多様な主体の協働で家棟川にビワマスを取り戻せ！
9	淡海を守る釣り人の会	釣り人による清掃活動
10	滋賀県 温暖化対策課	滋賀県の低炭素社会づくりの取組
11	NPO法人 蒲生野考現倶楽部	蒲生野考現倶楽部の活動紹介
12	琵琶湖・淀川流域圏連携交流会(BYnet)	BYnetの活動紹介
13	水宝山	善意(利他)と誠意(共感)と熱意(持続)でびわ湖をよくする「びわぽいんと」始ま
14	認定NPO法人びわこ豊穡の郷	オオバナミズキンバイ除去活動 2019
15	NPO法人国際ボランティア学生協会IVUSA	北湖のオオバナミズキンバイと私たちに活動について
16	元近木川流域自然大学研究会	小河川(近木川)から広域流域圏(琵琶湖・淀川)へ
17	滋賀県 琵琶湖保全再生課	琵琶湖の保全再生について
18	琵琶湖・淀川流域圏再生推進協議会および 琵琶湖・淀川流域ネットワーク推進会議	琵琶湖・淀川流域における取組紹介
19	グラフィックレコーディング掲示	

琵琶湖周航の歌 歌詞カード(1～3 番)

1 われは湖の子 さすらいの
旅にしあれば しみじみと
のぼる狭霧や さざなみの
志賀の都よ いざさらば

2 松は緑に 砂白き
雄松が里の 乙女子は
赤い椿の 森蔭に
はかない恋に 泣くとかや

3 浪のまにまに 漂えば
赤い泊火 なつかしみ
行方定めぬ 浪枕
今日は今津か 長浜か